

水害への備え

防災安全課 ☎32-8046 ㊚76-5702

この時季は、豪雨や台風などによる水害が発生する恐れが高くなります。7月には静岡県熱海市で土砂災害が発生、中国地方の各地では線状降水帯による大雨で大規模な浸水被害が生じました。自分の地域は被害が起きたことがないから大丈夫、と思っていませんか。近年、局地的な集中豪雨や大型台風による風水害は大規模になっており、それは突然やってきます。被害をできるだけ小さくするためにも日頃からの備えが重要です。

—「天災は忘れた頃にやってくる」。自分で、家族で、あらためて備えについて考えてみませんか。





【写真】平成12年9月の東海豪雨
令和元年10月、令和2年9月の集中豪雨での市内の様子



「みよし市安全安心
なまちづくり大使」
みよ獅子ちゃん

水害が起きたら、自宅周辺や近くの川はどうなるの？

浸水想定区域図で確認する

みよし市防災マップに掲載されている浸水想定区域図では、大雨で河川が増水・氾濫した場合と、側溝や下水道から雨水があふれた場合の浸水範囲と浸水の深さを予想した区域を示しています。災害に対する備えの第一歩は自分自身の被災リスクを知ることです。皆さんの住んでいる地域が浸水の危険がある場所なのか確認しておきましょう。



ハザードマップ

浸水実績を確認する

過去の豪雨や台風で浸水実績のあった区域を示した「境川流域浸水実績図」を市ホームページおよび防災安全課で公表しています。避難の際に浸水リスクの少ない「浸水想定区域外」を知っておくことも備えの一つです。



浸水実績図

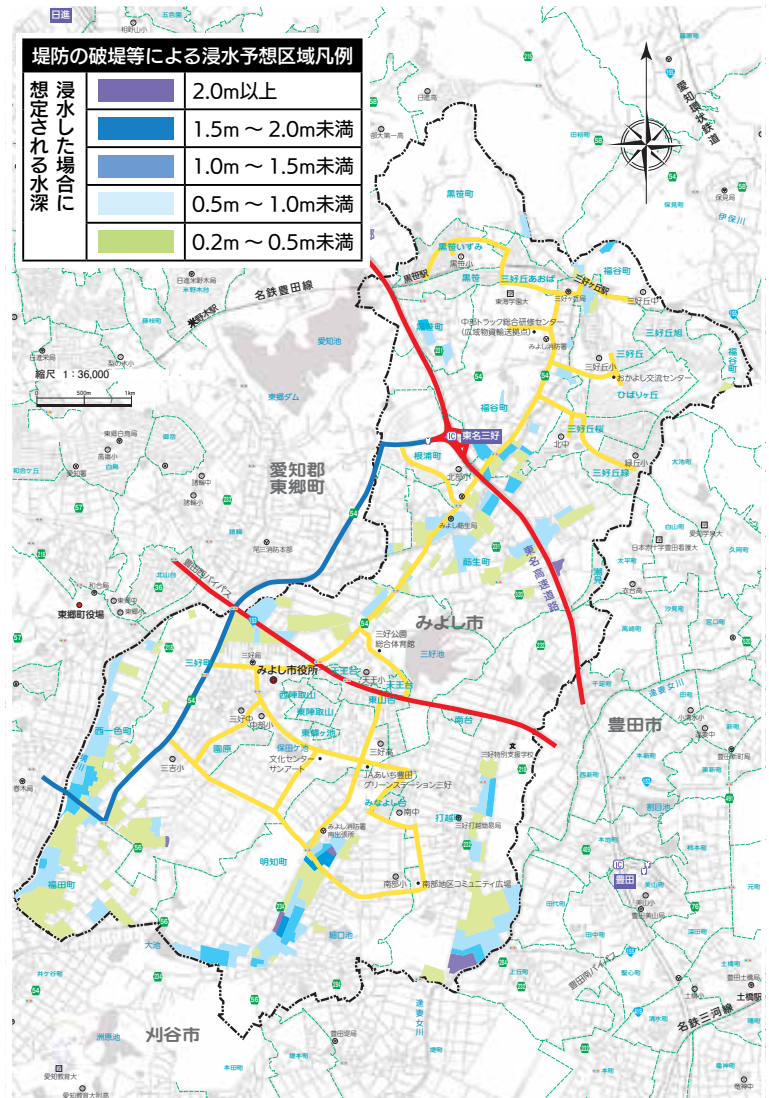


防災マップは防災安全課で配布しているほか、ホームページでも確認できます。(H26年12月全戸配布)



防災マップ

浸水想定区域図・緊急輸送道路



▲防災マップ 33 ページ

市内での水害による主な被害状況 みよし市は比較的災害の発生が少ない地域ですが、過去には家屋に被害が及んだ水害が発生しており、決して安心することはできません。



東海豪雨
平成12年9月11・12日
床上浸水 4戸
床下浸水 55戸



大雨による災害
平成24年8月11日
床上浸水 3戸
床下浸水 24戸



どこから情報を知ればいいのか？

情報入手する手段はさまざま

災害の被害を最小限にするためには、自ら気象情報などの正確な情報を収集することが重要です。市では災害が発生する恐れがあるときは気象情報や命を守る避難情報をさまざまな手段でお知らせします。自分に合った情報入手する手段を事前に確認しておきましょう。



防災行政無線

市内各所に設置している屋外拡声子局(スピーカー)から、避難情報などを一斉に放送します。



ラジオ

- ・防災行政無線でお知らせした情報を防災ラジオで放送します。
- ・エフエムラジオ78.6MHzで避難情報などを放送します。



テレフォンサービス

防災行政無線の内容を聞き取れなかったり、もう一度確認したい場合は☎0561-32-0010へ電話(放送から24時間以内)してください。



みよし安心ネット

災害発生時の緊急情報をメールで配信します。登録をすると気象情報や避難情報などがメールで届き、すぐに確認できます。防災行政無線の内容も確認できます。また外国語(英語・中国語・ポルトガル語)での配信やファクスの送信も行っています。

【登録方法】

右記QRコードを読み取るか下記メールアドレスに空メールを送信してください。

✉ anshin-miyoshi@sg-m.jp



登録フォーム



市ホームページ

避難指示が発令された場合はホームページのトップページおよび防災安全課のページで情報を確認することができます。



ホームページ



境川監視カメラ

西一色地内にある境川水位観測所付近のライブカメラ映像が配信されています。映像は5分ごとに更新され、リアルタイムな河川の水位状況を確認できます。



雨量・風速情報

市内5カ所の雨量が確認できます。その日の0時から現在までの雨量が10分ごと、1時間ごとで表示されています。



ひまわりネットワーク・Lアラート

ひまわり12(地上デジタル12ch)、NHKデータ放送、民放テレビでさまざまな情報を確認することができます。

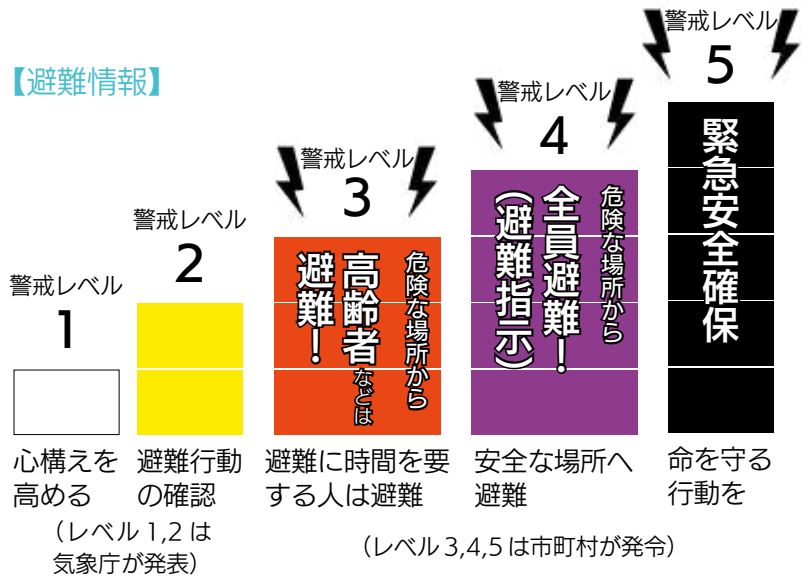


いつ、どこに避難すればいいの？

避難のタイミング

災害が予想される場合にはさまざまな情報が出されます。避難が遅れると、かえって避難することが危険になる恐れがあり、避難情報で避難のタイミングを確認することはとても大切です。危険度や避難のタイミングをより分かりやすくし、災害時の逃げ遅れを防ぐために今年5月から自治体が発表する避難情報に変更されました。警戒レベルは災害に備えて皆さんがとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたものです。レベル3で高齢者などは避難、レベル4で全員避難となります。警戒レベル5は災害が発生または切迫している状況で、ただちに命を守るための行動をとることが必要です。

【避難情報】



避難場所を判断する

必ずしも避難＝避難所ではありません。「避難」とは「難」を「避」けること。災害時の状況を想定し、普段からさまざまな選択肢を準備してどう行動するか決めておきましょう。



自宅

自宅が安全であれば避難所への移動や感染リスク、快適性の面からも在宅避難を検討しましょう。その際は2階以上のより高い階へ避難しましょう。



親戚、知人宅など

頼れる人が安全なところに住んでいたら、普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。



避難所

在宅避難が困難で、安全な場所に住む親戚や知人宅が避難先として確保できない場合は、市が開設する避難所へ避難してください。身の危険を感じ避難指示が発令される前に自主的に避難をする場合は、防災安全課(☎32-8046)へ連絡してください。一時避難場所をご案内します。
※市内避難所は防災マップやホームページで確認できます。

新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者や感染が疑われる人は、専用の避難所への避難となります。避難する場合は防災安全課(☎32-8046)へ連絡してください。

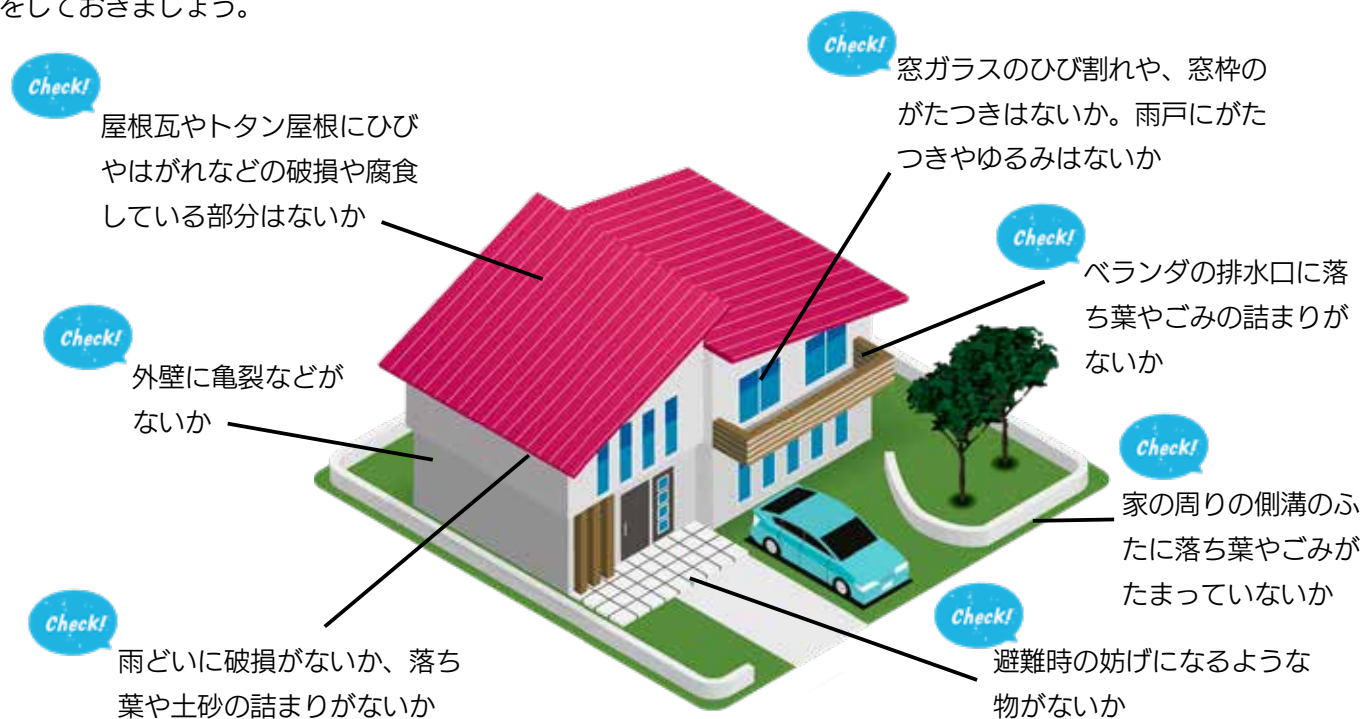




何をどう備えればいいのか？

家屋の点検・修繕

家や家の周囲の対策をしておくことで水害の被害を軽減することができます。普段から点検や必要であれば修繕をしておきましょう。



ローリングストック

水害に限らず大規模な災害に備え、各家庭で非常食などの備蓄が必要です。最低3日分の食料・飲料水などを確保しておきましょう。食料の備蓄方法はいつもの食材を少し多めに買い置きしておき古いものから消費する「ローリングストック」をお勧めします。賞味期限や保存した日付の古いものから順に消費し、消費した分を買い足すことで常に一定量の食品を確保することができます。

【非常食の一例】カップラーメン、缶詰、レトルト食品



土のう・水のうの準備

水害の応急対策として用いられる土のう。土のう袋や中に入れる土・砂はホームセンターなどで購入することができます。自宅の浸水被害を防ぐために有効な土のうですが、雨が降り出してから準備は大変です。事前にいくつか準備しておく、すぐに対応できます。また土のうの準備が難しい場合に代わりになるものが水のうです。水のうは家にあるもので手軽に作成できます。次のページでは土のう・水のうの作り方を紹介します。





土のうの作り方

【用意するもの】

- ・土のう用袋
- ・シャベル（スコップ）
- ・土
- ・軍手

※土のう・水のうはあくまでも大雨になる前や水深の浅い段階で行う浸水への備えです。

【手順】



1



袋に土をいれましょう。土の量は袋の6分目程にしましょう。



2



袋の端にあるひもを引いて口を閉じます。袋の口を人差し指を下にして握り、指を巻き込みながら3周程ひもを巻きつけます。指を抜いて、できた隙間に上からひもを通しましょう。



3

完成！

ひもを引いて固く締め…土のうの完成です。



水のうの作り方

【用意するもの】

- ・大きめの家庭用ごみ袋
- ・水

【手順】



大きめのごみ袋を二重にし、半分程度の水を入れて袋の口をしっかりと縛ります（ひもがあればひもを使用）。中の空気を抜くのがポイントです。隙間なく並べたり段ボールに入れて連結すると強度が増します。



【水のう活用例】



玄関前や床下収納の浸水防止



トイレや洗濯機、風呂場の排水口からの逆流防止



いざという時のために

いざという時のために確認しておきましょう。



浸水想定区域図をチェック

自宅は浸水想定区域内? はい・いいえ

浸水した場合に自宅 が浸水する深さ	~	メートル
----------------------	---	------

避難する場所①

避難所

移動手段 _____

自宅(2階などの高い場所)

親戚や知人の家

その他 _____

所要時間 _____

避難する場所②

避難所

移動手段 _____

自宅(2階などの高い場所)

親戚や知人の家

その他 _____

所要時間 _____

家族などの連絡先

氏名	生年月日	血液型	職場・学校など	電話番号	メールアドレス

市の備えの一部を紹介



ゴムボート

救助活動を支えるゴムボートを有事に備えて3艇配備予定。



水防訓練

洪水を想定した水防訓練を毎年実施。土のう作成や積み土のう訓練を行っています。



近年の自然災害は気候変動などにより被害が甚大化する傾向があります。その時になっていろいろ考えては命を守る行動はできません。水害から大切な家族、人の命を守るための「備え」、それが私たち一人一人に今できる大切なことです。